

平成 24 年 5 月 27 日提出
教育林コーディネーター水本

「土橋自然観察教育林 森林展示館展示更新事業」現地協議会 報告書

開催日時：平成 24 年 5 月 21 日（月） 19：00～21：00

開催場所：土橋自然観察教育林 森林展示館

出席者：協議会員 4 名

事務局：朝倉、森（理）、石井、水本

協議事項 1. 森林展示館展示更新事業

◎基本方針

- ・基本的にはコーディネーターの企画案に沿って更新事業を進めていく。その後、利用者の反応を見つつ変更・改善を行っていく。
- ・展示館を利用した利用者にアンケートを記入してもらうなど、利用者の反応がわかるようにし、その結果を今後の展示に活かせるようにする。

①基本情報提供ゾーン

- ・教育林立体模型は現在の教育林のコースを示しているわけではないので、直すか新たに作成する（冬季）。
- ・ヒバ情報等を展示する際、単に基本的なヒバの情報を並べるのではなく利用者が実際に林内でヒバを観察したくなるような解説にする。
- ・「ヒバの分布」についてのパネルを作成しなおし、かつヒバ情報コーナーにまとめる。
- ・ヒバ輪切り標本について、年輪 100 年ごとに印をつける。

②歴史ゾーン

- ・教育林の年表について、以前もりもり倶楽部が作成したものが残っているはずなので参考にする。

③地質・植生ゾーン

- ・コーディネーターが個人的にお勧めするスポットの情報も付加する。その際にはぜひ長年教育林に親しんでいる方々がお勧めするスポット情報も付け加えたい。

④自分で考えるゾーン

- ・木材標本（小）を展示する際、種子標本や葉形の写真等を樹種ごとに合わせて展示するなど、樹種ごとに情報まとめて利用者がより理解しやすいようにする。
- ・木材標本（大）はイス等に加工してしまう方法も考えられるが、材標本としての価値も考慮しつつ使用方法については今後検討していく。現時点ではそのまま標本として用具室入口横に並べるなどして利用する。

○その他

- ・用具室横の空きスペースの使い方は今後検討していく。時計や写真など、記念品ではあるが現時点では用途のないものについては休憩室等に移動させる。
 - ・ライトは現行のまま使用し、日中は節電のため消灯しておく。
 - ・休憩室について、臨機応変に時期（夏季など繁忙期）や状況を見て子供連れの利用客などが休憩できるようにする。完全に開放してしまうのは難しいので（宿泊客等との線引きが困難）、給湯室なども場合に応じて利用可能という形にする。
 - ・種子標本は「④自分で考えるコーナー」にて木材標本（小）とまとめて展示する。化石・岩石標本等について教育林由来でないものについては撤去する。
 - ・黒松内町ブナセンターの取り組みを参考にする。
- （例1）デジカメを入林者に貸し出して林内情報を入手している。
- （例2）常連の入林者に開花情報を提供して貰い、花ごよみ作成の参考資料としている。

協議事項2．樹名板設置事業

- ・遊歩道閉鎖箇所において樹名板の設置を取りやめた樹種については、その代替りの樹木をコーディネーターが新たに選定しなおす。
- ・現段階で樹名板を設置する樹種に偏りがあるので、樹種を再考する。
- ・科ごとに樹名板のふちを色分けするなど、近似種同士で比較できるようにする。
- ・上記のように樹名板に樹名以外の情報を加える、もしくは展示館にて手持ち資料を用意するなど、利用者が樹木の情報を現地で確認することができるような工夫をする。
- ・樹名板設置の際にはヒバの会など地域の住民の方と共に行う。
- ・樹名板設置事業の経過については次回の協議会で報告したい。

以上